



ESCO News Letter

第6巻 第1号

発行日 2017年1月23日

PEST WORLD 2016

ペストコントロールに関する新たな知見を求め、PEST WORLD 2016(10月18日-21日開催)に参加しました。

PEST WORLDは、The National Pest Management Association(NPMA)の主催で、毎年1回開催されています。害虫駆除、ネズミ駆除、シロアリ駆除など、世界中からペストコントロールの専門家が集まり、最新の製品や技術、サービ

スが紹介され、連日、教育セッションが開かれるなど、世界規模の展示会です。2016年の開催地は、ボーイング社誕生の地であり、マイクロソフト、アマゾン・ドット・コム、コストコ、スターバックスコーヒーなど、数々の大手企業が本拠地を構える米国のワシントン州シアトルでした。ごく一部ですが、会場の様子をご紹介します。



この号の内容

PEST WORLD 2016

殺虫成分の動向

その他のトピックス

担当者が会場で、見て、感じたいろいろをご紹介します！

殺虫成分の動向

「家庭用殺虫剤」には、さまざまな殺虫成分が使用されています。そのなかでも最も多く使用されているのがピレスロイド系の成分ですが、ピレスロイド系の殺虫成分には、「殺虫効果」と「忌避効果」があります。

殺虫剤には成分に「精油」が含まれていることが多くありますが、海外では単なる香り付けとして添加されているの

に対し、日本の場合は、「ゴキジェットプロ 秒殺+まちぶせ(第2類医薬品)」のように、忌避効果を和らげ、ゴキブリをおびき寄せて、殺虫効果を向上することを目的に添加されているものがあります。アース環境サービスでは、アース製薬(株)と協力しながら、家庭用殺虫剤の技術を応用した業務用商品の研究開発にも取り組んでいます。

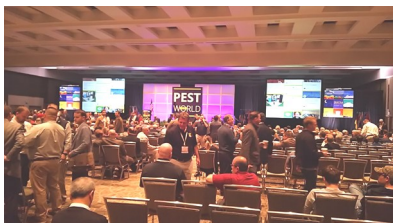
米国では、薬剤メーカーの戦略の影響もあってか、殺虫成分の主流が有機リン系から、ピレスロイド系(特に天然ピレスロイド)、更にはネオニコチノイド系、またはその混合乳剤へとシフトしてきましたが、Bed Bug(トコジラミ)の再流行により、特にピレスロイド系薬剤に抵抗性を持つトコジラミの対策として、DDVPが再び注目されているようです。今回の展示会では、DDVPの関連商品の出品は、前回の1社から3社に増えて

おり、窒素ガスを使用した噴霧装置や、プレート、エアゾールが出品されていました。エアゾールは、ドライ性が強くアピールされている商品、トコジラミ、ゴキブリ、クモを対象にした商品、ピレスロイド系溶剤を組合せることで、即効性と残効性を持たせた商品、など複数が出品されていました。DDVP以外のトコジラミ対策商品としては、小型でデザイン性の高い熱風殺虫器も多数出品されていました。

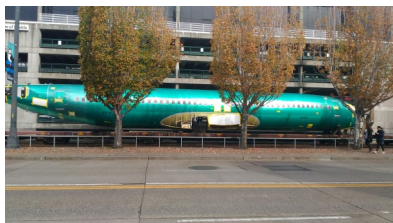
DDVP(ジクロロボス)

農薬として開発されましたが、日本国内では2012年に農薬登録が失効しており、現在は殺虫剤・防疫用殺虫剤の成分として使用されています。一時期は、故意の混入による冷凍餃子事件で話題になったDDVPですが、揮発性が高く、残留性が低いという特徴があり、正しい用途・用法・用量に基づいた使用による健康被害の報告はありません。

なお、DDVP樹脂蒸散剤「バボナ殺虫プレート(第1類医薬品)」は、2012年に「劇薬」指定を解除されました。



熱気あふれる EXHIBIT HALL の様子。



街中を列車で輸送中のボーイング社の飛行機の機体。工場見学は定番のツアーコース。



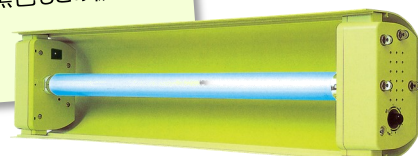
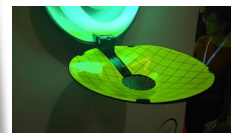
1962年に開催されたシアトル万博の際に建てられ、現在もシアトルのランドマークとなっているSPACE NEEDLE(スペースニードル)。

その他のピックアップ

担当者が会場で、見て、感じたいろいろをご紹介します！

<ライトトラップ>

捕虫紙に黄緑色を使用した(UVライトが当たると黄緑色に見える)商品が多くみられました。アース環境サービスのモニタリング用捕虫器ESCO641(エスコムシイ)で使用している黄緑色の優位性が認められている、と言えるのではないのでしょうか。また、黒色を使用しているメーカーも数社見られました。昆虫の光に対する反応に関しては様々な仮説があり、現在、アース環境サービスでは浜松医科大学と共同で、「昆虫は光そのものに誘引されるのではなく、光と周囲が作り出す視覚的エッジ(緑)に誘引される」という仮説に基づいた新型捕虫器の開発を進めています。捕虫紙の黒色もこの仮説に基づいて使用されているのかも知れません。



<そ族の対策>

主にハツカネズミ、ドブネズミが対象とされていました。モニタリングやラットセンサーなど、既にアース環境サービスがご提供しているサービス以上に、特別に優れた商品は見当たりませんが、モニタリング時の無毒餌については、リキッドタイプなどの新製品もあり、いくつかのサンプルを持ち帰ることができました。

<ICTの活用>

一般家庭を対象の中心としているためか、作業員(従業員)の現在地情報管理システムなどはありましたが、日本国内の農業展などで見られるデータを収集して分析・解析をするような高度なレベルのものは見当たりませんでした。

◆ 効率勝負?! のICT活用 ◆

米国のPCO業界全体での売上は年間約8,000億円、今後は1兆円を目指しているようですが、売上の9割は一般家庭向けの商品やサービスによるものとのこと。業界トップ企業の売上は約1,800億円で、1家庭当たりによれば2,000円/月程度の計算になりますから、ICTを活用して作業員の動きを管理するサービスなど、「効率を上げる」ということが重要なテーマの1つとされているように感じました。

アース環境

総合環境衛生管理で
社会に貢献します

無断複写・複製はご遠慮下さい。
本件に関するお問い合わせは、
03-3253-0640
ホームページもご覧ください
<http://www.earth-kankyo.co.jp/>

今後も継続した情報収集を行います。

ペストコントロールについての最新の技術や情報を入手することは、アース環境サービスがご提供するTHC(トータルヘルスケア/総合環境衛生管理)の品質を維持・向上する上で大切です。持ち帰った情報やサンプルは、今後検証や検討を重ね、また今後も継続した情報収集を行うことでTHCを進化させ、更なるサービス向上をめざしてまいります。